

2021年 9月 12日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教「ここに教会がある理由」 マタイによる福音書 16章13—20節 高橋彰

◆ペトロ、信仰を言い表す

16 13 イエスは、フィリポ・カイサリア地方^{ちほう い}に行ったとき、弟子^{でし}たちに、「人々^{ひとびと}は、人の子^{ひと こ}のことを何者^{なにもの}だと言^いっているか」とお尋ね^{たず}になった。14 弟子^{でし}たちは言^いった。「『洗礼者^{せんれいしゃ}ヨハネだ』と言^いう人も、『エリヤだ』と言^いう人もいま^{ひと}す。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者^{よげんしゃ}の一人^{ひとり}だ』と言^いう人もいま^{ひと}す。」15 イエスが言^いわれた。「それでは、あなたがたはわたしを何者^{なにもの}だと言^いうのか。」16 シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子^{かみ こ}です」と答^{こた}えた。17 すると、イエスはお答^{こた}えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸^{さいわ}いだ。あなたにこのことを現^{あらわ}したのは、人間^{にんげん}ではなく、わたしの天^{てん}の父^{ちち}なのだ。18 わたしも言^いっておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩^{いわ}の上にわたしの教会^{きょうかい}を建^たてる。陰府^{よみ}の力^{ちから}もこれに対抗^{たいこう}できない。19 わたしはあなたに天^{てん}の国^{くに}の鍵^{かぎ}を授^{さず}ける。あなたが地上^{ちじょう}でつなぐことは、天上^{てんじょう}でもつなされる。あなたが地上^{ちじょう}で解^とくことは、天上^{てんじょう}でも解^とかれる。」20 それから、イエスは、御自分^{ごじぶん}がメシアであることをだれにも話^{はな}さないように、と弟子^{でし}たちに命^{めい}じられた。

聖書 新共同訳(C) 日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

今日の箇所は、マタイ福音書において重要な転換点になっています。ガリラヤで宣教活動をはじめられたイエスは、同時に自ら声をかけて弟子たちを招き、同伴されました。弟子たちはイエスが語られる言葉を常に聞き、イエスが病や痛み^いに苦しむ人びとをいやされるのを目にし、食卓を囲まれるときに同席して喜びを共にしてきました。さらにイエスの働きを広げるために権能を与えられて組になって送り出され、町々を巡って福音を宣べ伝えてきました。

これまでの記述の中でしばしば人びとの間に「イエスはいったい何者なのか」という問いが起こり、反応が生じたことが記されています。人びとは驚嘆して(7:28, 8:27, 9:33)イスラエルの神を賛美し(9:8, 15:31)、預言者やダビデの子ではないかと口に(12:23)しました。バプテスマ(洗礼者)のヨハネは「来たるべき方はあなたでしょうか」と問い(11:3)、弟子たちは湖上の小舟の中で嵐をおさめたイエスに「あなたは本当に神の子です」とひれ伏し拝みました(14:33)。

イエスはガリラヤのさらに北方、ヨルダン川の源流域にあるフィリポ・カイサリア地方に行かれた時、イエスご自身の方から弟子たちに尋ねられました。「人々は人の子のことを何者だと言っているか」と。「人の子」とはイスラエルの伝統で来たるべき救い主(メシア)を表す言葉として用いられていましたが(ダニエル7:13)、イエスはお自分を称する時によく用いられていました。弟子たちは「バプテスマのヨハネだ」、「エリヤ」だ、「エレミヤ」(エズ・ラ2:18)だ、「預言者の一人だ」と言う人もいます、と答えました。いずれもイスラエルの民によく知られ、世の終りの時に到来する重要な人物、預言者だと考えられていました。

イエスはもう一度問いかけられました「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言^いうのか」と。他の誰でなく、あなた自身はわたしを何者だと思^いい、どう答えるのか態度を示し、告白して証言するようにと求められました。シモン・ペトロは答^{こた}えました。「あなたはメシア、生ける神の子です」。「メシア」は救世主(ギリシア語でキリスト)を意味し、「生ける真の神」の約束された救いを実現する者としてイスラエルの民に待望され、口にされて来た言葉でした。

イエスはシモン・ペトロの告白に答えて「あなたは幸^{さいわ}いだ」と祝福しつつ、「あなたにそのことを表したのは人間ではなくわたしの天^{てん}の父^{ちち}なのだ」と付け加えられ、ペトロの告白の背後に神の導きがあることを示されました。神を知り信仰に至ることは、人間の知恵によるのではなく、幼子のように神に信頼する者に神が示される(11:25)と言われた通りです。神ご自身がペトロの心に働きかけ、告白する言葉とそれを発する意思をも与えられたのです。

イエスもまたシモン・ペトロに対して、「あなたはペトロ」と呼ばれ、「この岩の上にわたしの教会を建てる」と言われました。この後ペトロはイエスの十字架と復活の重要な証人となり、すべての福音書でまず初めに名を挙げられ、後の教会の筆頭の人として記されます。諸福音書(と使徒言行録)も、パウロも、ペトロの名を特に記し、伝承を伝え、面会したことを記します。しかしそれはペトロの身分や立場が教会の中で特別に高められたということを証明するのではなく(23:8-11)、(実際の初代の教会の指導者的立場に立ったのは主の兄弟ヤコブであつたこともうかがわれます)、イエスの弟子として、イエスに近くあり続け、イエスとやり取りを続け、告白の有言実行に生きようとするキリスト者の典型(モデル)として受け止めることが大事だと言えます。ペトロは高められるどころか告白の通りに生き抜けず、岩のように強くもなく、失敗や挫折をした人であるとも描かれていることも重要です。しかしそのような破れのある人間を、イエスは愛して招かれ、弟子とされ、教会を建ててそこで生きる者としてくださるのです。ペトロと同じように、わたしもイエスに信頼し、「あなたはメシアです」とイエスに告白し、イエスに導かれて生きることへと促されていることに答えてゆく者でありたいと思います。教会が、定義や信条のみで存在するのではなく、一人ひとりの人が告白する者としてのことの大事さを思わされます。教会は、主イエスから地上で「天の国の鍵」を預けられているという光栄の言葉が与えられています。他の人びとを招き入れるために門の鍵を開けねばなりません。

--	--